本校の教育方針

校 長
Ph.D 阿部　恵

函館高専は、我が国最初の国立高専（一期校）として昭和37年に開校して以来，社会や産業界の期待に応える実践技術者としての人材を数多く育成し，輩出してきました。中学卒業後の５年間一貫教育で，大学工学部生と同程度の専門知識が習得できる高等教育機関です。高校・大学一貫（高大接続）の技術者教育をすでに実践してきており，産業界からも高い評価を受けています。本科卒業後は専門技術者として企業や官公庁等に就職することになりますが，国公立大学の理系学部や工学系大学に編入する場合も多く見られます。また専攻科（２年間）に進学すると，修了者には４年制大学卒業と同じ学士の学位が付与されます。そこから他大学の大学院に進学することもできます。卒業後の様々な進路に対し、５年間じっくり自分の適性を見て将来を計画する個別指導を行っています。

科学技術の進歩は目覚ましいものがあります。また現在はこれまで例のない少子高齢化が進み，人口減少問題に直面しています。しかし，我が国の産業基盤の中心が科学技術を基本とした「ものづくり」にあることには今後とも変わりありません。グローバル化と同時に「地方創生」の産業基盤を支える工学教育と「ものづくり」人材育成には，地域にある高専の重要な役割です。函館高専では，人格形成期における豊かな人間性・社会性を育む教育と工学基礎教育を重視するとともに，産業界に役に立つ応用・実践までの工学一貫教育を行い，同時に国際社会で活躍するグローバルエンジニア育成に向けて海外の教育機関と連携した国際教育を進めています。地域活力や高度化・国際化に対し，新しい技術分野に対応できる独自の教育システムを整備しています。生産システム工学科，物質環境工学科，社会基盤工学科の３学科には，それぞれ最新の機器や設備が導入されています。また，グローバルエンジニアとして活躍できるよう英語の学習環境も整っていますし，国際交流や海外研修などのプログラムも用意されています。

本校の目的（使命）

本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

教育目的

技術者に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、実践的研究の水準向上に努め、道南地域唯一の総合的な技術系高等教育機関として均衡ある発展を図る。

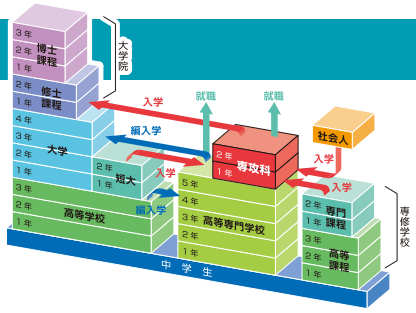
教育目標

函館高専は、中学卒業生を対象とした５年間一貫教育を行い、高度な実践的技術者を育成する高等教育機関として、以下の教育目標を掲げます。北海道内・青函地域に根ざした学校の特徴を生かし、地域、日本、世界のあらゆる分野で活躍する技術者を育てるための教育環境を提供します。

A.想像力と実行力を持った技術者
B.専門技術に関する基礎知識を持った技術者
C.情報技術を活用できる技術者
D.社会の歴史や文化、技術者倫理を理解して行動できる技術者
E.多面的なコミュニケーション能力を持った技術者
F.問題解決のためのデザイン能力を持った技術者

日本の学校制度と高専

昭和37年度に産業界からの強い要望に応えるため、実践的技術者を養成する高等教育機関として高等専門学校を創設。平成３年度に高等専門学校制度の改正（卒業後に称号（準学士）付与、分野の拡大、専攻科制度の創設）。



教育における三つのポリシー

本校では、「教育目標」に基づき、以下のとおり「称号授与方針」、「教育課程の編成・実施の方針」及び「入学者受け入れの方針」の三つの方針（ポリシー）を定めています。

●称号授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本科課程では、入学した学生全員が、地域、日本、世界で活躍する人材に成長するための人文系・自然科学系教養教育とともに工学の専門教育を行います。身につけた学力、コミュニケーション力、論理的な判断力などを駆使し、主体的な役割を担い、問題解決をチームで展開できる人材を育成します。

そのため本校は、卒業生には自然科学や専門分野の知識を有し、文化・歴史的な背景も理解した幅広い人間力を備え、社会の発展に対し持続的に貢献できる人材へ成長することを期待します。

このような人材を育成するため、教育目標に基づき、学科ごとの特性に合わせた専門教育を行います。独立行政法人国立高等専門学校機構の「モデルコアカリキュラム」に基づいた３つの能力に対して、各学科及び各コースが定めた称号授与の水準に到達した学生に準学士の称号を授与します。

1．学科に共通する基礎的能力

（1）現象を客観的に観察するための基盤としての数学、物理、化学などの自然科学分野の知識を持つ。
（2）機械、電気電子、情報、化学・バイオ、建設系の専門分野のリテラシーとなる知識を持つ。
（3）地域社会、日本、そして国際社会の文化、歴史、政治経済、環境等に関する知識を持ち、広い視点から物事を理解できる。
（4）口頭や文章での日本語による表現力を身につけ、英語による基礎的なコミュニケーションがとれる。

2．工学的専門能力

（1）専門分野の知識を課題の解決や現象の理解などに活用できる。
（2）課題の解決のために専門分野に関係した実験や解析などを進めることができる。

3．分野を横断して必要な能力

（1）知識、技術を主体的に修得し、主体的に課題に取り組んでいくことができる。
（2）周囲との協調・協働の必要性を理解し、コミュニケーションをとりながら合意形成や問題解決を図ることができる。
（3）継続的に成長するための主体的な行動をとることができる。

●教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するため、一般科目において自然科学分野、情報処理科目と人文系科目、英語を中心とした外国語科目、さらにコミュニケーション科目、すべての学科のリテラシーとなる工学科目を配置しています。学年進行とともに専門科目の割合が増す「くさび型教育」となっており、４年次からは、各学科とも多様な専門性に対応する科目を配置しています。また、座学で得た知識を活用する実験実習科目や課題解決能力を育むことを目的とした授業など、知識、技能、創造性を習得可能な科目を配置しています。

【成績評価方法に関する方針（学科共通）】

1．講義科目においては、科目ごとの到達目標を設定し、演習、課題、定期試験などの結果を総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
2．実技・実験・実習・演習およびプロジェクトベース科目などの実践的科目においては、課題への取組み状況、レポート、発表、技能スキルなどに対して到達目標を設定し、それらを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
3．卒業研究においては、研究成果をまとめた論文、研究発表、取り組み姿勢に対して到達目標を設定し、それらを総合的に勘案し、到達目標に対する到達度を評価する。
4．上記の教育課程を編成する各科目の学修の成果は、シラバスに記載された評価方法に沿って評価する。成績は100点法によるものとし、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。なお、成績評価の評語の点数基準は右のとおりとする。

成績評価の評語の基準

評価	点数
秀	90点以上
優	80点以上90点未満
良	70点以上80点未満
可	60点以上70点未満
不可	60点未満

●入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【求める人材像】

函館高専は工学の知識とスキルを通して社会に貢献し、未来を柔軟で力強く生き抜く人材へと成長したい人を国内外から広く受け入れます。具体的には次のような人を歓迎します。

（１年次入学・帰国生徒）
・科学技術に興味があり、それを活用して社会へ貢献する意欲のある人
・異なる文化を尊重し、国内及び国際社会で活躍したい人
・大学や専攻科に進学してさらに高い専門性を身につけたい人
・高専・大学・専攻科・実社会などの各ステージを通して成長し続けたい人
・仲間と協力してともに成長し、未来を切り開こうとする協調性やコミュニケーション能力のある人
（４年次編入学）
・将来取り組んでみたい課題を表現できる人
・生徒会、部活動、委員会等のような他者との関わりのなかで得られた経験を持つ人
・自らの意見や考えを的確に伝えることができる人
・国際社会で活躍したいと考えている人

【入学者選抜方針】

本校では、「求める人材像」に沿って、その能力と適性を有する人材を選抜するため、推薦による選抜、学力検査による選抜、帰国生徒特別選抜を行います。

（１年次入学）

推薦による選抜は、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため、調査書および自己推薦書を評価するとともに各学科が求める人材像や、アドミッション・ポリシーに定めた観点にて面接と作文を行い、その結果を総合的に評価します。

学力検査による選抜は、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため、学力検査を行い、その結果を調査書の評価と合わせて総合的に評価します。学力検査は国語、英語、数学、理科、社会の５教科です。

帰国生徒特別選抜は、豊かな国際性と、本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため、英語、数学、理科の３教科について学力検査を行います。加えて、目的意識、意欲、適性などに関してアドミッション・ポリシーに定めた観点にて面接と作文を行い、調査書等を合わせて、それらの結果を総合的に評価します。

（４年次編入学）

本校の教育を受けるのに必要な素養と基礎学力を有した学生を選抜するため、学科共通の基盤としての数学と英語、さらには入学を希望する学科のアドミッション・ポリシーに定めた観点で専門科目に関する学力検査を行い、面接と調査書を合わせて総合的に評価します。